

## (第6章) ウズベキスタンの日本語学校・校長が来訪

### 人口2万2千人のまち・リシタン市の日本語学校「NORIKO 学級」

ウズベキスタンの東部でキルギスとの国境付近に位置する、人口僅か2万2千人のまちに無償で日本語教育が受けられる「NORIKO 学級」という学校があります。

NORIKO 学級が設立されたきっかけは、小松製作所に勤めていた大崎重勝さん、紀子さんご夫妻が、仕事で初めてリシタン市を訪れた時、子どもたちの屈託のない笑顔と生き生きした躍動感、大人たちの真心のこもった歓待に感銘を受け、「子どもたちの未来のために何かを作ってあげたい」という強い決意から、現地の方と協力して1999年に作られたものです。 ※「NORIKO」は大崎紀子さんの名前から命名。

### ナジロフ・ガニシエル氏が遺志を継いで「NORIKO 学級」の校長に

大崎重勝さんが05年に病没後、その遺志を継いでナジロフ・ガニシエル氏が校長に就任され、以降日本語教育と日本との交流に尽力されてきました。

現在、NORIKO 学級は、小・中学生を中心に年少から高校生まで、約40名から60名の子どもたちが無料で日本語の勉強に励んでおり、大学レベルの日本語検定2級合格や2016年のCIS日本語弁論大会では優勝者を出すなど素晴らしい結果を残しています。

ガニシエル氏のほかにも、毎年30名を超える日本人がこの学級を訪れ、今では累計500名以上が「先生」として日本語を教えています。

### ■2019年1月、ガニシエル氏が初来訪

#### ○市役所訪問 山口副市長と面会

1月9日、ナジロフ・ガニシエル氏が舞鶴市役所を訪問し、山口副市長と面会しました。今回の訪問は、舞鶴市内にNORIKO 学級の「先生」経験を持つ支援者の女性が2人おられる縁もあり、本市への訪問を希望したことから実現しました。

ガニシエル氏は「NORIKO 学級の生徒の多くは、日本への留学や日本で働くことを希望している。ホストタウンである舞鶴市との人材交流を進めたい。」、山口副市長は「貴国とホストタウンとして交流を深めていることに運命を感じている。今後も互いの理解を深め、スポーツ、文化、経済など幅広い交流に発展することを期待している。」と述べました。



山口副市長との面会の様子



その後、関係課の職員とも懇談し、リシタン市で日本語を勉強する若者の舞鶴への留学・就労受入れなど、今後の人的交流の可能性について意見交換をしました。

### ■2019年5月、ガニシエル氏が再来訪

市内の社会福祉法人の招きでガニシエル氏が再来日。5月15日～19日までの間、舞鶴市に滞在しました。

#### ○市役所訪問 多々見市長と面会

5月15日、舞鶴市役所を再訪問し、市長と面会しました。ガニシエル氏からは、NORIKO学級について市長に説明したほか、「介護・建設・農業などの分野で人材交流が進めていきたい」と発言し、リシタン市長からの手紙を市長に手渡しました。

また、同日に関係課職員と議論し、人事交流を実現するための課題整理を行いました。



市長表敬



関係課職員との協議

#### ○市内の介護施設を視察

5月17日、市内の介護施設を訪問し、入所者やスタッフと交流しました。施設関係者とは、介護人材交流に関する特定技能制度や留学などについて意見交換を行いました。

また、滞在中には、市内の茶園や介護専門学校、ポリテクカレッジ京都校も訪問し関係者と交流をしました。



介護施設で入居者と面会



専門学校の先生と交流



市内の茶園も視察